

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当エリアは住民主体の地域福祉活動が活発で、地域の福祉拠点である常設サロン「いこいの家」があります。また、住民間の支えあいの仕組み「ふれあいヘルプ」が実施されている等、泉区内でも先駆的な取組を実施している地域です。それ以外にも、8の各自治会町内会で高齢者サロンがあり、体操教室も13団体ある等、地域活動も盛んです。様々なお祭りやイベントも活発に実施されており、連合や地区社協・民児協が連携しながら積極的に福祉に取り組んでいる地域でもあります。しかし、コロナの影響もありサロン活動の縮小・シニアクラブの解散がみられましたが、徐々に地域活動が再開してきています。今年度は再開・継続に向けたサポートや、改めて地域ケアプラザの機能周知、介護予防・認知症予防(啓発)に向けた取り組み、新たなボランティア発掘や社会福祉法人・企業による地域貢献事業、スマホやZOOMといったICTの啓発等、withコロナでも持続可能な交流を生み出す事業に力を入れたいと思います。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	エリア内の教育機関(小中学校、保育園、幼稚園等)にむけて福祉教育の実施、ボランティア活動の紹介、交流を促進してまいります。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	スマートフォンやZOOM等、ICTの活用・啓発を目的とした事業を継続し、新たな交流の場・手段の拡大を目指します。また介護予防・認知症予防(啓発)を目的とした事業開催においても、ZOOM等の活用を検討し会場に来なくても参加できる形での開催を目指します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	シニア男性の閉じこもり問題に対し、男性限定の講座やグループのサポートを行い地域デビューを促進する取り組みを進めてきました。今年度は、グループの更なる周知やプログラムを検討・実行し、シニア男性の健康寿命促進を目指します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	担当エリアにおいて、ヤングケアラーについての周知を目的とし、地域への講習会を実施。地域での支援を共に考えてまいります。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	「いこいの家」「みんなの絵本のおうち」等、地域の交流拠点の利用者増加のサポートをしてまいります。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

- ・コロナ感染症が5類に引き下がり、地域活動が再開・拡大傾向にあった。地域活動の担い手の思いに寄りそうことを意識しながら、地域の交流拠点の運営の継続や利用者増加のサポートを行った。
- ・ヤングケアラー講座を開催し、地域住民への周知を図ることができた。一方で参加者が少なく、まだ、周知が必要と思われる状況。次年度以降も、同様の内容で講座を開催し、さらなる周知を進めていく。
- ・ICTの活用については、次年度以降、ホームページの積極的な活用や、講座参加申し込みのWEB受付など、できる範囲を徐々に拡大していく方向。
- ・福祉教育については、前年度の福祉教育のかかわりが地域から好評だったこともあり、その継続を前提に、下半期の計画を進めていく。
- ・シニア男性の活動グループについては、今年度、グループの参加者が興味・関心を抱いているトピックをもとに6回の講座を開催した。グループ自体は積極的に活動しているが、新規層の獲得にはつながっていない状況がある。そのほか、グループへの参加をステップに新たな活動の機会を得るきっかけを設ける仕掛けづくりが必要と思われる。
- ・新規キャラバンメイト2名が誕生したため、今後、キャラバンメイトと連携しながら、先の活動を計画していきたい。
- ・介護予防については新しい拠点(中和田小学校コミュニティハウス)を開発したが、新規の参加者は少なく、新たな活動拠点の検討が必要と考えられる。

区からのコメント

- ・生活支援体制整備事業では、泉区アクションプランの着実な推進のため、区内生活支援コーディネーターが一丸となって取組を進められています。次年度も引き続き、泉区アクションプランに基づく各種取組の推進を期待しています。
- ・認知症支援事業では、いづみ中央・いづみ野エリアのキャラバン・メイト連絡会を再開するなど、キャラバン・メイト育成に向けた積極的な支援ができています。今後も引き続き、認知症の正しい理解に向けた取組を推進してください。
- ・地域活動の支援については、地域活動が再開・拡大傾向にあるなかで、交流拠点の運営の継続や利用者増加のためのサポートに加え、学校と連携した福祉教育の実施、新たなボランティア発掘、スマホやZOOMといったICTの啓発等、持続可能な活動や交流を生み出すための取組が行われています。引き続き、こうした幅広い世代を対象とした取組を継続し、地域の誰もが気軽に相談できる施設運営を期待しています。